

超電磁ロボ コン・バトラーV

1976年

『超電磁ロボ コン・バトラーV^[注 1]』（ちょうでんじロボ コン・バトラーV）は、1976年4月17日から1977年5月28日まで、テレビ朝日系列で毎週土曜18:00 - 18:30（JST）に全54話が放送された、東映テレビ事業部制作のテレビアニメ。通称は『コンV』。

概要

【制作の経緯】

本作品は東映テレビ事業部が初めて制作を手がけたテレビアニメであり、それまで系列会社の東映動画が手がけていた同種作品とは異なり、東映テレビ事業部が企画してアニメーション制作を創映社（現・サンライズ）に委託するという手法が採用されている^[1]。この制作体制は、本作品に端を発した長浜ロマンロボシリーズ以降もキー局・制作会社・代理店などを変えながら、『ビデオ戦士レザリオン』（1984年）まで続くことになる。脚本を担当した辻真先によると、本作品は『勇者ライディーン』のスタッフが手掛けることになっていた。しかし、同作品や本作品にて総監督を務めた長浜忠夫によると、彼自身は『ライディーン』の終了が確実視されるようになって、その続編の企画をテレビ局に売り込むことを継続しており、本作品の飯島敬プロデューサーの催促を無視していたそうである。結局、新番組の立ち上げが不可能になるギリギリの時期で長浜は『続・ライディーン』を断念し、同作品のスタッフがようやく本作品に回ってきたものの、このような事情からスケジュールが逼迫し^[3]、当初は1976年4月3日からであった放送開始予定を、最終的に2週遅らせる形で同年4月17日からの放送開始となった。また、5機合体の絵コンテは、『ライディーン』終了からわずか数週間の準備期間しかなく多忙を極めた長浜に代わり、かつて東映動画の演出家でもあった東映エージエンシーの及部保雄が描いていたと、辻は証言している。

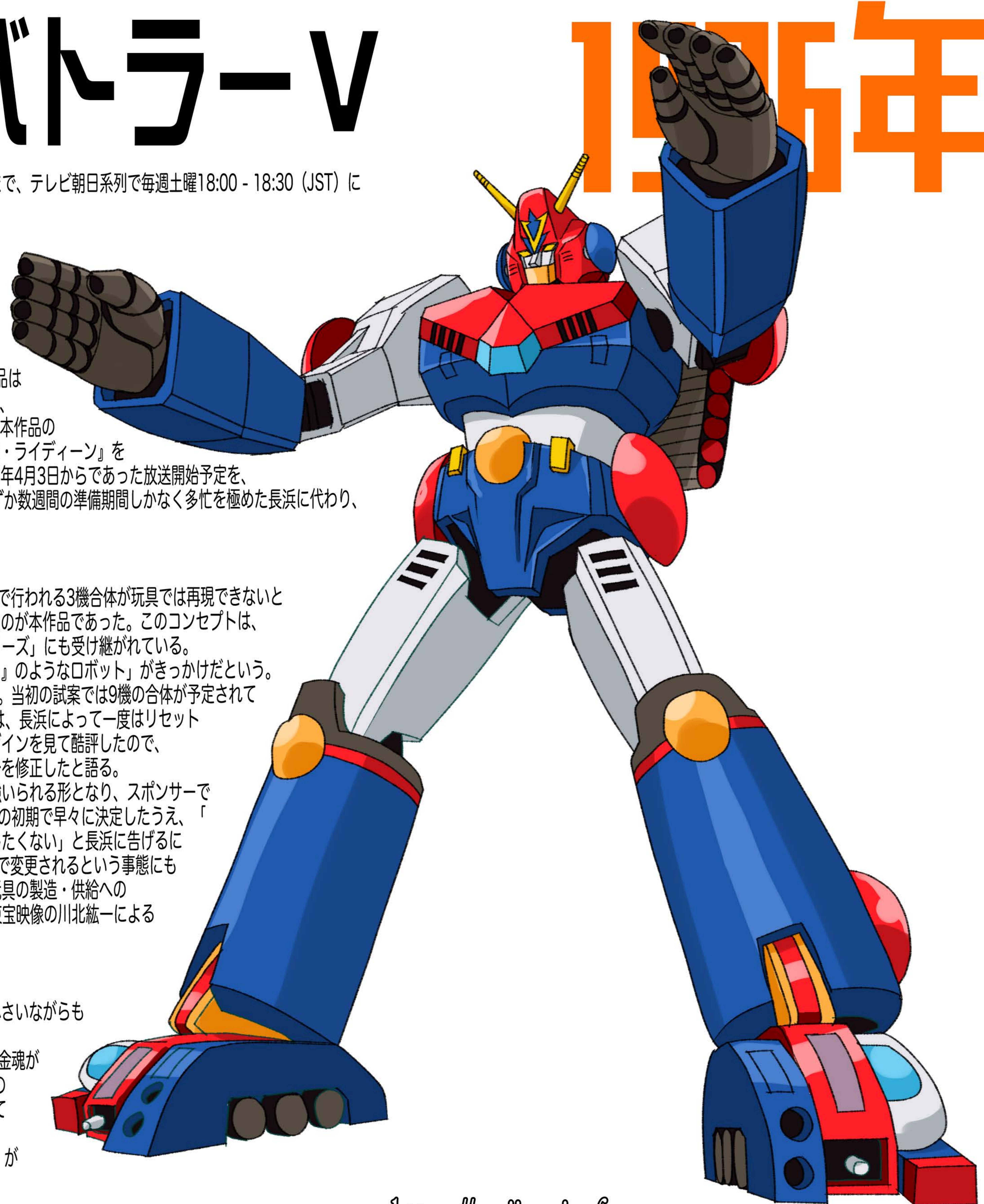
【デザインとコンセプト】

コン・バトラーVのデザイン、ひいてはコンセプトに大きな影響を与えたのが『ゲッターロボ』であった。ゲッターロボは作中で行われる3機合体が玩具では再現できないという不満が高まっていたので、玩具メーカーのデザインにより、玩具上でも可逆的に合体・分離が可能な合体ロボを登場させたのが本作品であった。このコンセプトは、次作『超電磁マシン ボルテスV』や、後年本作品と同じ時間帯にて放送された特撮テレビドラマシリーズ「スーパー戦隊シリーズ」にも受け継がれている。デザインを担当した村上克司によると、本作品は東映の渡邊亮徳が持ってきた「胴体を輪切りにされた、いわば『だるま落とし』のようなロボット」がきっかけだという。村上は輪切りではなく各パーツが異なる個性を持ったマシンにすると決め、これがコン・バトラーVの基本コンセプトとなった。当初の試案では9機の合体が予定されていたが、多すぎるということで6機に減らされ、最終的に5機に落ち着いた。その一方、キャラクターとメカニクスのデザインは、長浜によって一度はリセットされている。長浜は『ライディーン』の試写で近所の子供を毎回招いていたが、彼らが帰る時に長浜の机にあった本作品のデザインを見て酷評したので、デザイン変更を決定した。安彦良和によると、ロボットのデザインは村上が担当し、安彦が作画的にアクションが出来ない部分を修正したと語る。しかしこうしたアニメ制作側の独自判断でのアレンジにより、これに併せるべく金型の再作製を行うなど大変な労力と出費を強いられる形となり、スポンサーであるポピーにとっては不満の残るものとなった。このため次作『ボルテスV』では、ポピー側がロボットのデザインを企画段階の初期で早々に決定したうえ、「もうロボットはどこもいじらないで下さい。コン・バトラーの時は、製造工程上大変迷惑を受けた。もう二度と、あの思いはしたくない」と長浜に告げるにまで至っている。またデザインに一切触れさせてもらえなかったにもかかわらず、必殺技の設定についても1976年末の土壇場で変更されるという事態にも見舞われており、結果キー局名の変更に合わせて終了予定だった本作品を1977年5月末まで延長し、『ボルテスV』の開始と玩具の製造・供給への時間をどうにか捻出せざるをえない状況となってしまった。こうした紆余曲折を経ながらも、本放送当時発売された玩具は、東宝映像の川北紘一によるCM演出も効果を上げて大人気を博した。

【番組終了後の展開】

番組終了後の1982年、海外展開に伴い「宇宙にはまだこんなに凄いやつがいた!」というキャッチフレーズとともに、一回り小さいながらもポピニカとほぼ同じデザイン・合体と、より洗練されたプロポーションを再現し、強度不足を解消したDX超合金『電磁合体コン・バトラーV』が発売された。また1999年（放映23年後）にはアニメに忠実なデザイン・合体を再現した超合金魂が「少年の心を持った大人たちへ…」のキャッチフレーズで発売され、さらに10年を経た2009年（放映33年後）には超合金魂のリニューアル版が発売。2009年版の発売時には5機のマシンを収納できる大型基地「南原コネクション」の玩具も限定品として通信販売された。そして2017年にはDX超合金魂が発売される。超合金魂の約1.5倍ほどのサイズで完全変形合体を実現し、合体サウンドなどの音声も再現されている。2012年5月、京楽産業からパチンコ『CRぱちんこ超電磁ロボ コン・バトラーV』が発売され、ホールでの稼働を開始。キャラクターデザインは、アニメーターの田村英樹によって一新されている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



【コン・バトラーV】

キャンベル星人の地球侵略とその尖兵である巨大戦闘メカ・どれい獣に対抗するため、南原博士が国連の協力を得て開発した巨大合体ロボット。バトルジェット、バトルクラッシャー、バトルタンク、バトルマリリン、バトルクラフトの5機のバトルマシンが合体して、全高57.0メートル、重量550.0トン、最高飛行速度M11の巨大ロボットとなる。動力源は原子力エンジンから発生する電力を基にして生み出される超電磁エネルギー。装甲材質は実在する素材であるサーメット。操縦方法はヘルメットから発信される特殊な信号がパイロットの記憶細胞に取り込まれることで習得する。このため、初招集直後にどれい獣の襲撃を受けたバトルチームもすぐに戦うことができた。基地である南原コネクションにいるロボット・ロペットが彼らの脳波の同調[注 5]作業を司る。5人全員の脳波が同調する（コネクション管制室にあるドックにロペットが就いた状態の時に全てのメーターの指針が振り切れ、内照と頭のセンサーライトが発光する）と、「コンバインオクケー!」というロペットの合図に続き、バトルチームの「レッツ・コンバイン!」の掛け声と共に合体が始まる。搭乗者5人の脳波が完全に同調しないと合体ができない点が弱点として挙げられ、そこを敵に突かれることもしばしばあった（ちずるの偽者に紛れ込まれ合体を妨害される、ロペットが誘拐される、大作の脳波がゲップで乱れる、豹馬と十三がいがみ合いで統一しない等）。合体ロボとしては『ゲッターロボ』（1974年）に2年に遅れるが、「鉄がむくむく動くウソ（当時の製作スタッフの発言）」のない、外見上理に適った合体機構は「やっと許せるものが出てきた」と男性ファンから歓迎された。合体後の機体固定がはっきりと出ているのは、ジェットを収納したクラッシャーの機体内にジェットのラジエータグリルに噛み合うロックラッチが出るだけである。この時機体内の照明が橙色である事が判る。エンディングテーマで毎週歌われていた「身長57メートル 体重550トン」のフレーズは特に有名であり、後の漫画・小説などで巨大ロボットの大きさ・重さの設定としてしばしば使用される。

【バトルマシン】

【バトルジェット】

高速戦闘機。合体後はコン・バトラーの頭部。最高速度はマッハ4。合体直前に操縦用コンソールがコン・バトラーの操縦用に変形する様子が描かれる（操縦桿がコラム部分から割れて左右に開く）。合体後の主操縦席はこの機体のコクピット（操縦は他の機体からも行うことができ、第43話において南原ちずるがバトルマリリンから超電磁スピンを放ったほか、大作がビッグブラストやアンカーナックルを発射している）。主翼や尾翼は分厚く、二号機のクラッシャーが射撃戦主体であることもあってか、文字通りの格闘戦が得意。特にドスプレッシャーを回しながら敵どれい獣&マグマ獣に捕まった他のバトルマシンを助けるシーンの印象が強い。コン・バトラーは量産計画が進んでおり、劇中ではバトルジェット2号機が登場している。

【バトルクラッシャー】

重爆撃機。合体後はコンバトラーの胸と両腕になる。合体後、クラッシャーのコックピットはコンバトラーの正面胸中央部に位置し、正面胸中央部に露出して外壁と同化するため敵の攻撃が一番受けやすい可能性もある。内蔵火器の多くは合体後も使用可能であるが、名称が変わることあり。腕の武器を使うときには進行方向後方に置んだ腕部を展開させたりもする。豹馬のジェットが格闘戦用の戦闘機なのに対し、こちらは射撃戦中心。

【バトルタンク】

発電所1基分の出力を持つ原子炉+蒸気タービン発電機を搭載した、ドーザープレート状の収納式パワーアームを持つ重戦車。合体後はコンバトラーの腹にして動力源。飛行能力を持たないためバトルマリリンに空輸されている。機体上部（コン・バトラー時の背面）に収納式の戦車砲を持つ機動力のあるどれい獣&マグマ獣相手には殆ど使用されない。なお合体後には前面に来る部分が底部のためこの形態ではビッグブラストは撃てない。左右のクローラーは各々2本の大型蛇腹状アームで連結しており合体時には巻き取られる形で収納される。玩具ではこのギミックは2017年現在再現不能の模様であり玩具類では多関節アームでの接続が現状一番近い変形構造として採用されている。又、『超合金魂』シリーズでは実際のクローラーの配置部分との齟齬が見られる。

【バトルマリリン】

双胴型の潜水艇であり飛行能力も有している。合体後はコン・バトラーの両脚部になる。合体後太腿になる部分からバトルタンク運搬用のキャリアーが出る。修理装置を内蔵しており戦闘力は低いが、分離時にはバトルタンクを輸送したり簡易修理をしたりと活躍している。コンバインしてコンバトラーに変形後は5機中唯一コクピットが体内に隠れる仕様になっている。

【バトルクラフト】

小型万能偵察機。空・陸・海あらゆる地形に対応でき、合体後はコンバトラーの両足になる12輪のマシン。最高速度はマッハ1.8。一番の武装は搭載された各種分析装置であり、4連位相干渉波解析光線、イオン分析装置、多元磁界追尾装置、万能分析装置、熱線追跡カメラ、どれい獣・マグマ獣の弱点を探った透視光線など。直接の戦闘よりも、これらを駆使しての索敵や敵の弱点の発見などに活躍。複座式だが、もう一つのコクピットは無人。通常は右足に乗る。そのためか追加されたカッターキックは左足で行なわれていた。左足は実に二度に渡って完全破壊されており、一度は溶解液でポロポロになって溶け落ち、もう一度は仕掛けられた爆弾で完全に粉碎されているが、直後の戦いでは「修理」という扱いで再生している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://majingai.x.fc2.com>

超電磁ロボ コン・バトラーV



超電磁ロボ コン・バトラーV

【ストーリー】
地底に潜んでいたキャンベル星人が侵略行動を開始した。これを予期していた南原博士は超電磁の力で合体する巨大ロボ「コン・バトラーV」を建造。天下御免であらゆる武器を持てる許可証を交付して全国から4人の若者を集め、孫娘のちずるを含めた「バトルチーム」を結成した。南原博士の死と四ツ谷博士の登場、大將軍ガルダの悲しい秘密、新たな敵女帝ジャーナの出現…地球に平和を取り戻すまで豹馬たちの戦いは続く。

登場人物
【バトルチーム】
企画段階のキャラクター名は、主人公が「中島俊」、浪花十三に相当するキャラが「東山勇太郎」、他は同じで、東西南北+中であった。

【葵豹馬 (あおいひょうま)】声 - 三矢雄二 (現・三ツ矢雄二)
主人公でチームリーダー。熱血少年だが、孤児院育ちの天涯孤独な生立ちからか理屈屋のため少々ひねくれた所もある。正義感は強く、友情や人との信頼を大事にし、そのためには命も惜しまない。暴走族あがり気性の激しいケンカの達人。初期には十三とのいがみ合いでコンバインを邪魔してしまうこともあったが、後に頼れる仲間となった。初期にガルダとの戦いで両腕を失うが、人工細胞を用いた精巧な義手を装着し戦線に復帰する。後に義手の人工部品に対する拒絶反応が出たが、痛覚を利用して克服する。バトルジェットに乗り込み、コンバイン後はコン・バトラーVのメインパイロット (機体そのものの制御と、一部武装の制御) を務める。本編ではゲストの女性キャラクターに好かれているが、恋愛にはやや鈍感なタイプ。モグマ戦で決死の偵察行に向かう時、見送るちずるの視線から、初めて彼女の想いに気付いた模様。その頃から買い物につきあったり、ちずるのやきもちに反応するなどの描写が増えていった。最終回ではそれぞれの故郷に戻る十三、大作、小介の三人をちずると共に見送った後、彼女と共にコネクションに戻る。

【浪花十三 (なにわじゅうぞう)】声 - 山田俊司 (現・キートン山田、ナレーションも兼任)
昭和33年4月1日生まれ。常に斜に構える気障な皮肉屋で、口の悪さは相当なもので周りから誤解を受けやすい。ライフルの腕前は、わずか8歳でライフルの大会に出て優勝するなど超一流で、その天才的な実力でチームの窮地を救うなど生身での戦闘力も一流。その実力ゆえに指紋まで備えた精巧なアンドロイドを量産され、危機に陥ったこともある。コンバインの後も銃器管制を務める。豹馬とはぶつかることも多いがお互いの力は認めており、いつしかお互いに頼れる仲間となっていた。バトルクラッシャーに乗り込む。大阪出身で関西弁で喋る。

【西川 大作 (にしかわ だいさく)】声 - 立壁和也 (後のたてかべ和也)
巨漢で柔道の達人。漫画家になるのが夢 (主に擬人化された動物を描く)。バトルタンクに乗り込み、コンバインの後には出力の制御を主に行う。九州、阿蘇山麓の出身で熊本弁を操る。気は優しく力持ちの好漢。五人兄弟の長男。

【南原 ちずる (なんばら ちずる)】声 - 上田みゆき
南原博士の孫で紅一点。髪は緑色のロングヘアでやや勝ちだが女の子らしい一面もあり、豹馬とやがて恋仲に。先天性の心臓弁膜症を患っていることが劇中で明らかになった。バトルマリンに乗り込み、戦闘中はマリンでタンクを運ぶ他、搭載された修理装置で他のバトルマシンの応急修理をすることも。スリーサイズ：B84-W60-H不明。好きな食べ物：おいも・ケーキ。村野、成田がデザインした姿はストレートヘアではなく、パーマがかかっていた。最終回では豹馬以外の男性メンバーを見送った後、豹馬と共に家とも言うべき南原コネクションに帰った。

【北 小介 (きた こすけ)】声 - 千々松幸子
小学生ほどの年齢だがIQ200、洞察力に長け飛び級で大学に進学したほどの天才で敵の戦闘力や武器の性能を瞬時に読み取り対抗策をアドバイスしている。まだオネショが治らない。バトルクラフトに乗り込む。北海道阿寒町[10]の出身。両親は阿寒湖の畔に住んでおり、父親がマリモの研究をしている。登場当初は口の悪さで幾分小生意気な言動も見られたが、次第にバトルチーム内の弟的存在となり、小介自身ちずるを「お姉ちゃん」と呼んだこともあった。後に金太たちの登場で彼自身もかれらの兄的存在となっている。研究者・開発者としての面も持ち、コン・バトラーの強化の際には四ツ谷らと共に徹夜をしたこともある。合体時にはもっぱら、クラフト搭載の複数の分析機器を駆使して敵の弱点を探る。

【ロペット】声 - 野沢雅子
自意識を持つロボット。バトルマシンを通じてチーム5人の脳波を測定、コンバイン時の要となる。なお、コンバインに必要な超電磁波の出力調整はロペットが行う。合体後もロペットによる管制が行なわれており、合体中に脳波が乱れるなど介入されると、コン・バトラーは結合が解けてバトルマシンに分離してしまう (実際、第40話において偽者のちずるがこの方法でコン・バトラーを分解させている)。両目 (右が豹馬、左が十三) と胸から腹にかけて3つ (上から大作、ちずる、小介)、計5つのメーターがあり、それぞれが各人の脳波を示すと共に、コンバイン時以外にはこれら (特に目の二つ) で、アナクロながらも豊かな表情を形作る。また胸の部分、大作のメーターの箇所が開き、飲み物 (酒も) を出したりもする。第38話で、合体メカ蛙ブローに飲み込まれたトラウマで蛙が嫌いになってしまった事もあった。両手はフレキシブルパイプにつながったペンチ状のフックだが、器用に使えるようで、掴む・挟む・抱える・トレーを支えるなど自由に使いこなしている。第34話では、敵が作った偽の秘密基地から脱出するべく、両手に内蔵された有線式爆弾を作動させてシャッターを破壊した。両足台形配置されたクロウラとなっている。これも器用に伸縮自在に操っている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2022.03.14

916年



超電磁ロボコン・バトルラーV



【キャンベル星人】

【大將軍ガルダ】声 - 市川治 / 島田敏 (パチンコ版)

地球侵攻軍司令官。地球人を下等な虫けらと見なしており、情け容赦の無い攻撃を仕掛ける。プライドが高く、豹馬に対して好敵手として扱い、騎士道精神を示したこともあるが、反面、人質作戦や暗殺計画を仕掛けたところもある。王子然とした美形キャラクターであるが、表皮の下に鳥人の姿が隠されている。母であるオレアナを敬愛していたが、実は彼はキャンベル星人に似せて作られたアンドロイドであり、オレアナとの親子関係も敬愛の情もプログラムによって植え付けられた偽りのものに過ぎなかった。破壊されたミーアを救おうと足を踏み入れたロボット工場で15体にもぼる自らと同じ顔の失敗作を目の当たりにしたことでその事実を知ることになり、敬愛は一気に憎しみへと転化する。

アンドロイドではあるが完全な機械体ではなく、流血し痛覚もあり、傷を修復するなどの擬似生体機能もある。最初から傀儡として利用されていたことを悟ったガルダはオレアナに反逆。巨大メカ、ビッグ・ガルダに搭乗してオレアナの本体を破壊したのちに単身コンボラーVに挑むが敗れ、ミーアの亡骸を抱きながらメカともども爆散する。ひおあきらの漫画版では自らの正体を知った後にガルダ帝国を名乗り、キャンベル星への反乱も企てていた。

2022.03.19



【ビッグ・ガルダ】

第26話でガルダが操縦するガルダそっくりの戦闘ロボット。武装はオレアナ像を破壊する程の力を持つ弓矢の先端にロケット弾を装備した弓で攻撃する「ビッグボウ」と右手首に仕込まれた鋸と左腰に装備されている剣「ウイングソード」（ただし、アニメ版では未使用だった）で、オレアナを破壊した後にガルダはミーアの亡骸を抱えてコンボラーVと最後の戦いに挑んだが、右手首と左腕を破壊されて最後は超電磁スピんに貫かれてガルダ共々破壊される。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

【スタッフ】

企画 - 落合兼武 (NET → テレビ朝日)、飯島敬 (東映)

原作 - 八手三郎 (連載誌 - 『テレビランド』、『てれびくん』、『小学館学習雑誌』)

キャラクター原案 - 村野守美、成田マキホ

メカニックデザイン - スタジオぬえ

アニメーションキャラクター - 安彦良和

総監督 - 長浜忠夫

美術監督 - 宮野隆

作画 - 佐々門信芳、安彦良和、藤岡辰也、長谷川稔、塩山紀生、山田政紀、富沢雄三、

長谷川稔、谷口守泰、村中博美、多賀一弘、高木としお、坂本三郎、清山滋崇、

外記康義、今村春美、大曾根真知子、加藤誠一、高橋資祐、加瀬充子、大原和男、

小倉貞雄、大川英雄、五十嵐広次

設定助手 - 小林治

作画製作 - 八幡正

製作協力 - 東北新社、創映社

制作 - NET → テレビ朝日、東映、東映エージェンシー

<https://majingai.x.fc2.com>

1976年

超電磁ロボ コン・バトラーV

【女帝オレアナ】声 - 野沢雅子
キャンベル星の天才科学者だったが、90歳の時に自らの意識を巨大石像内のマザーコンピュータに移して生き延びている。ガルダに対して厳しくも愛情深い母であるように振舞うが、本性は冷酷非情で、彼のこともただの道具としか思っていない。最終決戦の際には金属製のボディを現しコンバインを解くナルマグネ光線と炎を吐く石像ドルメンでコンバトラーを苦しめるが、自身の本当の出自を知って激高したガルダに反逆され、ビッグ・ガルダの攻撃によって破壊された。

【ギルア】声 - 緒方賢一
戦闘作戦区司令。大將軍であるガルダの戦闘面での補佐役で角が生えた鎧武者のような姿をした壮年型のハーフロボット。ガルダに対して敬語を使っているが、ガルダからは平手打ちを食らったり「壁飾り」と罵られる等、粗略に扱われることが多く、内心では不満を募らせていた。ガルダが大將軍を罷免された時、オレアナにより戦闘の指揮を一任された折り、兵士の前でガルダを呼び捨てにし、喜び勇んでコン・バトラーと戦うも、グレイドンごと地底の壁に叩き付けられて爆散した。

【ナルア】声 - たてかべ和也
奴隷獣区司令。諸惑星から集めた生物を元にどれい獣を作り上げるのを主な任務とする、角が生えた醜悪な老人の姿をしたハーフロボット。ギルア同様、ミアに対しては女と侮っていたが、第25話で彼女の剣幕に押され平伏してしまう。彼だけが最期の描写が無い。

【將軍ダンゲル】声 - 緒方賢一
ジャネラの部下。ワルクメデスの弟で隻眼、左手首は蟹の爪状の義手になっている粗暴な大男。マグマ獣に乗り込んで戦う。全くの考えなしではなく、ワルクメデスに言わせれば「鼻くそ同然」ながら悪知恵も働かせ、自分とメカの相性の良し悪しを短期間に察するなど勤の働くところもある。ジャネラに逆らったり、任務に失敗したりすると彼女の意志によりヘルメットの両耳部に付けられた巨大なネジが激痛と共に絞まる。卑劣な闘いも辞さない悪党ではあるものの、將軍としての誇りはありお情けでの勝利を潔しとせず、戦いを放棄し結果としてコンバトラーを救ったことがある。失敗続きのため、ジャネラに見限られ六時間後に爆発するよう体内の爆弾を作動させられてしまい、必死になって戦うも敗北。マグマ獣が倒されても生身で豹馬に戦いを挑むが、爆発のタイムリミットが訪れ、「まだ戦えるぞ! 戦わせてくれ!」と叫びながら爆死した。

【総統ワルクメデス】声 - 市川治
ジャネラの部下。キャンベル星人随一の頭脳を誇る。狡猾な性格。ダンゲルの兄だが外見は瘦躯で兄弟仲は険悪。肩書きは総統だが、全軍を掌握している訳では無く、マグマ獣を始めとする兵器開発の最高責任者と作戦立案の参謀役を兼務している。ダンゲルと同様に、失敗したりした時にはジャネラの意志でヘルメット部が絞まる形で激しい苦痛を与えられる。最終回では頭脳だけを取り出され、生体コンピュータを兼ねたサイボーグに改造されてしまった。その時点で機械的な反応しか返さなくなったので思考はないものと思われていたが、最終局面でジャネラの脱出を妨害。ジャネラとともに死亡する。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://majingai.x.fc2.com>

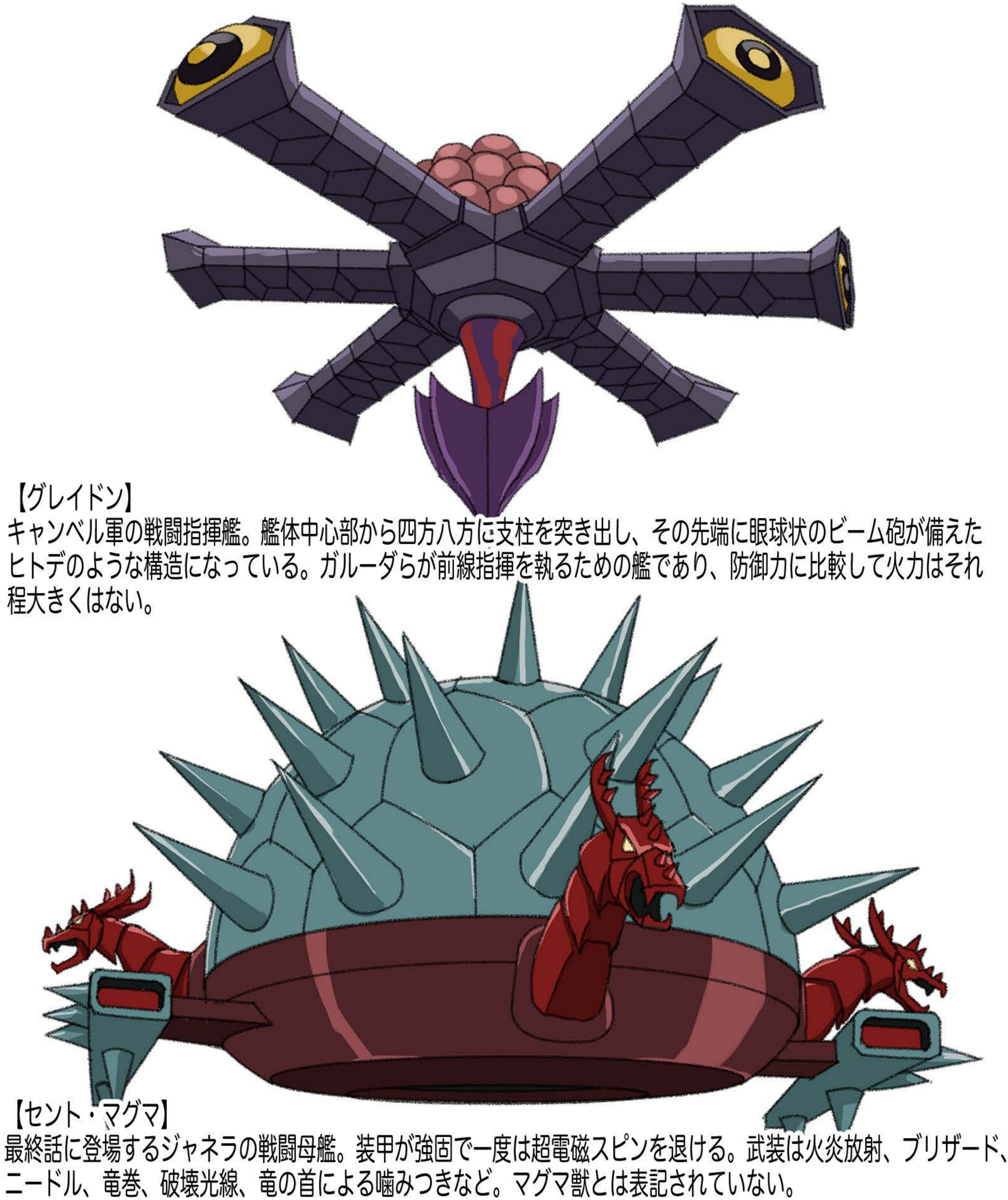
【ミア】声 - 千々松幸子
休息区司令。ガルダを慰めるために造られた女性型ハーフロボット。下半身はなく、上半身のみが壁から生えているような形状。移動時はオルゴール型の転移装置を使用する。角が生えた人魚のような姿をした美女でガルダに愛情を抱いている。本来戦闘には関与しないが、10話でロボットを標的にした作戦をガルダに具申し一定の成果をあげており、12話でもダイバをギルアから密かに借用してガルダの危機を救っている。普段はハーブを奏で淑やかな態度を崩さないが、第25話でガルダの更迭を撤回させるため、オレアナよりどれい獣デモンの指揮権を授かり、女と侮るナルア、ギルアを逆に恫喝しての出撃を指揮するなど気丈な一面を見せた。単身で出撃し、決死の覚悟でコン・バトラーVに挑むが撃退されデモンは大破し、駆けつけたガルダの危機を救おうとして捨て身でコン・バトラーに突撃し路上に放り出される。この時点では僅かながら息があったため、直ちにガルダによって修理工区に運ばれたものの結局修理不能のまま機能を停止する。図らずもこの一件がガルダの本当の出自を彼自身に思い知らせる結果となってしまった。

【女帝ジャネラ】声 - つかせのりこ / 日比野朱里 (スーパーロボット大戦シリーズ)
オレアナが敗れた後、キャンベル星から送り込まれた第三の侵略軍司令官。普段は体に蛇を巻いた美女の姿だが、激昂すると顔が鬼か蛇のような形相に変化する。普段の美貌には自信を持っているようで、醜いことを指摘されると怒る。終盤ワルクメデスをサイボーグにしたが、ダンゲルの方はダンゲルトンクという、ダンゲルの頭がついた小型戦車に改造するつもりだった(ダンゲルの死後、素体だけ登場した)。最終回で本国からの撤退命令を無視し出撃するが敗北。アースボムで地球ごと破壊しようとするが、ワルクメデスに脱出を妨害されセント・マグマの爆発に巻き込まれ死亡。オレアナ同様に肩書きは女帝となっているが、キャンベル星からの使者からは敬語が使われておらず、その地位も本星から見れば絶対的では無い。



話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	出撃! どれい獣を倒せ	辻真先	奥田誠治	横山裕一郎	金山明博
2	不死のどれい獣 ゾンビ	辻真先	坂口尚	寺田和男	金山明博
3	どれい獣ゼンダの罠	辻真先	斧谷稔	斧谷稔	金山明博
4	特訓! 超電磁ヨーヨー	辻真先	出崎哲	出崎哲	林政行
5	コンバイン! 危機一髪	田口章一	高橋良輔	横山裕一郎	金山明博
6	大將軍ガルダの挑戦	五武冬史	石黒昇	寺田和男	金山明博
7	絶叫! おれの腕を返せ	田口章一	斧谷稔	斧谷稔	塩山紀生
8	大逆転! 必殺二段射ち	辻真先	出崎哲	出崎哲	金山明博
9	憤怒のどれい獣キール	藤川桂介	安彦良和	横山裕一郎	安彦良和
10	ロペットが恋をした	五武冬史	寺田和男	寺田和男	金山明博
11	豹馬よ 痛みの炎を跳べ	田口章一	高橋資祐	上原一夫	高橋資祐
12	決闘! 豹馬対ガルダ	辻真先	斧谷稔	斧谷稔	塩山紀生
13	死を賭けた友情	桜井正明	高橋資祐	高橋資祐	高橋資祐
14	コネクション大爆発!	田口章一	出崎哲	出崎哲	坂本三郎
15	美しき戦闘員の涙	藤川桂介	高橋良輔	横山裕一郎	金山明博
16	非常事態! 一号機墜落	五武冬史	寺田和男	寺田和男	安彦良和
17	意外! Vは地獄の使者	田口章一	安彦良和	横山裕一郎	金山明博
18	発進! ガルガンチュウ	辻真先	高橋資祐	高橋資祐	高橋資祐
19	戦慄! 真っ赤な妖花	桜井正明	斧谷稔	斧谷稔	坂本三郎
20	卑劣! 博士誘拐さる	山本優	出崎哲	出崎哲	金山明博
21	標的はマリンド!	辻真先	高橋良輔	横山裕一郎	佐々門信芳
22	冷凍獣よ 君の星に帰れ	金子裕	寺田和男	寺田和男	金山明博
23	裏切られた友情	田口章一	安彦良和	岡崎邦彦	金山明博
24	死力だ! ちずるよ 起て	山本優	斧谷稔	斧谷稔	坂本三郎
25	大將軍ガルダの悲劇	辻真先	高橋資祐	岡崎邦彦	金山明博
26	オレアナ城大崩壊!	辻真先	出崎哲	出崎哲	金山明博
27	マグマ獣驚異の大反撃	田口章一	寺田和男	寺田和男	塩山紀生
28	やった! ニューV作戦	山本優	小林三男	横山裕一郎	金山明博
29	ああ! 堂々の珍勇士	五武冬史	斧谷稔	斧谷稔	金山明博
30	珍メカケロット大殊勲	辻真先	安彦良和	寺田和男	坂本三郎
31	電磁を奪う強敵モグマ	五武冬史	高橋資祐	横山裕一郎	高橋資祐
32	猛威! 恐怖のツララ弾	田口章一	斧谷稔	斧谷稔	金山明博
33	死闘! 六十秒が勝負だ	辻真先	寺田和男	寺田和男	塩山紀生

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
34	Vのみ込むマグマ獣	桜井正明	安彦良和	上原一夫	佐々門信芳
35	コネクション応答なし	五武冬史	横山裕一郎	横山裕一郎	金山明博
36	消える敵ドロンの謎	辻真先	斧谷稔	斧谷稔	坂本三郎
37	女王の罠! 豹馬危うし	田口章一	寺田和男	寺田和男	金山明博
38	ロペットは蛙が苦手!	桜井正明	横山裕一郎	横山裕一郎	佐々門信芳
39	男だ大作! ど根性戦法	山本優	安彦良和	横山裕一郎	金山明博
40	衝撃! ちずるは偽物だ	辻真先	斧谷稔	斧谷稔	金山明博
41	卑怯! 悪魔の人質作戦	辻真先	寺田和男	寺田和男	坂本三郎
42	清き瞳の暗殺者	田口章一	斧谷稔	斧谷稔	金山明博
43	女帝の趣味は豹馬狩り	五武冬史	斧谷稔	横山裕一郎	佐々門信芳
44	見事! ケロット攪乱戦術	五武冬史	寺田和男	寺田和男	塩山紀生
45	敵の秘策! スピン封じ	辻真先	斧谷稔	斧谷稔	金山明博
46	仮装舞踏会は死の香り	田口章一	斧谷稔	横山裕一郎	谷口守泰
47	ダンゲル捕虜となる!	田口章一	高橋資祐	上原一夫	塩山紀生
48	敵に超強力ロボ出現!	五武冬史	寺田和男	寺田和男	金山明博
49	体当り! ジェット2号	桜井正明	斧谷稔	斧谷稔	高橋資祐
50	三段変身獣スネーグル	辻真先	高橋資祐	横山裕一郎	金山明博
51	奇策! 十三ロボ群襲来	田口章一	寺田和男	寺田和男	坂本三郎
52	ダンゲル落日に死す!	辻真先	高橋資祐	横山裕一郎	金山明博
53	コネクションの最期!	辻真先	斧谷稔	斧谷稔	高橋資祐
54	平和の使者Vは不滅だ	辻真先	高橋資祐	山口三平太	金山明博



【グレイドン】
キャンベル軍の戦闘指揮艦。艦体中心部から四方八方に支柱を突き出し、その先端に眼球状のビーム砲が備えたヒトデのような構造になっている。ガルダらが前線指揮を執るための艦であり、防御力に比較して火力はそれ程大きくはない。

【セント・マグマ】
最終話に登場するジャンラの戦闘母艦。装甲が強固で一度は超電磁スピンを退ける。武装は火炎放射、ブリザード、ニードル、竜巻、破壊光線、竜の首による噛みつきなど。マグマ獣とは表記されていない。

【どれい獣】
第1話から25話までに登場するキャンベル軍の主力巨大生物兵器。冷凍状態で保存してある宇宙生物を解凍蘇生し、機械的な改造を追加して製造される戦闘用サイボーグ。知性や自我は殆ど無く命令のままに操られる。殆どが遠隔指令によって操られるが、第17話では搭乗者によって指揮されているシーンがある。第21話で登場したアルファはどれい獣としては珍しく知性があり自ら名乗りを上げている。ほとんど全てのどれい獣の声は緒方賢一が担当している。ゲーム「スーパーロボット大戦シリーズ」では後出の「マグマ獣」の表記で統一されている。

【マグマ獣】
第27話より登場する、キャンベル軍の新型巨大生物兵器。宇宙生物を機械改造して製造する点はどれい獣と同様だが、どれい獣と違う点はロボット然とした外観と將軍ダンゲルが直接搭乗して操作するコックピットが内蔵されていることである。頭脳制御装置が組み込まれているので通常は暴走せず操縦者の命令のままに動くが、第44話で完全な自我の抑制は出来ないことが明らかになっている。最終話で登場したマグマ獣は、いずれもどれい獣同様の遠隔指令で操られている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

超電磁ロボコン・バトラーV

<https://majingai.x.fc2.com>

【八手三郎】

八手 三郎（やつで さぶろう、はって さぶろう）は、東映映像本部テレビプロデューサーの共同ペンネーム。「スーパー戦隊シリーズ」をはじめとする東映制作の特撮テレビドラマ作品の原作者、およびその主題歌などの作詞者として扱われる。

【概要】

1970年代から現在に至るまで、数多くの作品の制作クレジットで（日本版スパイダーマンや、『超電磁ロボ コン・バトラーV』をはじめとする東映が直接制作を手がけていたテレビアニメ作品も含め）「原作」としてほぼ最初に表示されるが、単独の個人（自然人）の名義ではない。『動物戦隊ジュウオウジャー』公式サイトインタビュー記事では、「時代とともに身体と顔が変わる特異体質」「顔年齢はもちろん、性別が変わることもある」とされている。元々は、『仮面ライダーZX』までの「仮面ライダーシリーズ」などを手がけた東映テレビ部プロデューサーの平山亨のペンネームである[1]。彼が東映京都撮影所の演出部に所属していた当時、他社の作品を手がける際に「東映の社員が他社の作品で名前を出すのはまずい」という考えから使用された[2]もので、その後1976年あたりから東映テレビ部を指す名称となる。平山は1990年に東映を定年退職したが、この名義は彼が所属していた東映テレビ事業部、後には機構改革により映像本部テレビプロデューサー集団の共同ペンネームとなり、2021年現在も引き続き使われている。ブラザー劇場版『水戸黄門』[4]や一部の「スーパー戦隊シリーズ」では脚本家名としてクレジットされる。1984年の『星雲仮面マシンマン』最終話（総集編）では監督としてクレジットされている。2012年および2013年に放送されたパロディ特撮作品『非公認戦隊アキバレンジャー』では作品中のキャラクターとして登場するが、同作品では合同ペンネームではなく単一の人物、かつ物語を左右するキーパーソンとして登場しているうえ、作中では顔がはっきり映っておらず、台詞は1回だけ作中キャラクターに憑依してしゃべるとい形式が取られた（実際に演じた俳優についても言及はなされていない）。2016年制作の『動物戦隊ジュウオウジャー スーパー動物大戦』（『ジュウオウジャー』Blu-ray COLLECTIONの映像特典作品）で八手三郎（はってさぶろう）がカメオ出演した際には、当時の東映テレビ・プロダクション代表取締役社長であった日笠淳がこれを演じている。

【名前の由来・読み方】

由来は平山がプロデューサーからの催促の電話を受けたときの返事「やって候」（「やっていますよ」を時代劇調にしたもの）から。アニメ『超電磁マシーン ボルテスV』で剛日吉を演じた声優の小原乃梨子の著書においては「やってみろ」の転化であるとされている。読み方については資料によって「やつでさぶろう」もしくは「はってさぶろう」[1]とばらつきがあるが、平山自身は「やつでさぶろう」と読むつもりでつけたとしている[2]。スーパー戦隊シリーズを海外向けにリメイクした「パワーレンジャーシリーズ」では、リメイク元の原作者として、『ニンジャストーム』の第3話までローマ字表記で「SABURO YATSUDE」（やつでさぶろう）、その後は「SABURO HATTE」（はってさぶろう）とクレジットされており、『アキバレンジャー』『スーパー動物大戦』では登場人物に「はってさぶろう」と呼称されている。「なんでもやってみよう」という意味から「やってみろ」とも読める。

主な作品

【原作】

ザ・カゲスター（1976年）
忍者キャプター（1976年 - 1977年）
長浜ロマンロボシリーズ（1976年 - 1980年）
スパイダーマン（日本版）（1978年 - 1979年）
スーパー戦隊シリーズ（「八手」名義としては『バトルフィーバーJ』以降。1979年 - ）
未来ロボ ダルタニアス（1979年 - 1980年）
宇宙大帝ゴッドシグマ（1980年 - 1981年）
百獣王ゴライオン（1981年 - 1982年）
機甲艦隊ダイラガーXV（1982年 - 1983年）
メタルヒーローシリーズ（1982年 - 1999年）
光速電神アルベガス（1983年 - 1984年）
ビデオ戦士レザリオン（1984年 - 1985年）
超光戦士シャゼリオン（1996年）
非公認戦隊アキバレンジャー（2012年、2013年）

【脚本】

それからの武蔵
水戸黄門
天装戦隊ゴセイジャー epic19・33（2010年）
機界戦隊ゼンカイジャー スピンオフ ゼンカイレッド大紹介！（2021年）
機界戦隊ゼンカイジャー 第25カイ！（2021年）
暴太郎戦隊ドンブリーズ（2022年）
暴太郎戦隊ドンフレランス（2022年）
暴太郎戦隊ドンブラザーズ meets 仮面ライダー電王 目指せ！ドン王（2022年）
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

1976年

<https://majingai.x.fc2.com>

超電磁ロボ コン・バトラーV

